

小室薫氏らによる「特集：施設と患者年代による超音波診断の相違：標準化への課題と対策 シンポジウムのまとめ：標準化の課題と対策」(超音波医学. 2018;45:587-590)を拝読して

小室薫氏らによる標記シンポジウムのまとめ「標準化の課題と対策」を興味深く拝読した。論の冒頭で小室氏らは、「昨今、専門化・細分化の時代から変化して、より普遍的で統一性を持つ医療が望まれている。そこに標準化の概念が必須であることには疑いがない。」と述べている。医療の「専門化・細分化」は「統一性」へと変化し、その姿は「普遍的」なものであり、「標準化」の概念が必須であるという。本論文の中で用いられた、「標準化」と「普遍的」という二つの用語、および「教育」のあり方について、私見を述べたい。

地域医療の現場への幅広い超音波検査機器の整備と、認定制度などを通じた適切な精度管理のもとでの超音波検査士活動を背景として、小室氏は超音波診断の抱える問題として、施設・職種・小児と成人に代表される被検者の世代差をあげ、その解決への処方箋としての「標準化」をとり上げている。

まず施設間差は、検査対象となる受診者の疾病構造の差による評価項目の差に、その主因を求めている。次に、被検者の世代差は、小児と成人の間でみられる計測方法の差から始まる。発達にともなう年齢別正常値の変動などの問題が、小児から成人に至る移行期医療を行う上での問題点であることを指摘している。

職種間差は、医師は臨床症状等からあらかじめしほり込んだ項目のみを評価するのに対して、検査技師はスクリーニングや重症度診断などの「普遍的」検査を行う差だという。前者は、「被検者の傍らで医療従事者自らが行う簡便な検査で、診療や看護をはじめとする医療行為の質や被検者のQOL (Quality of Life) の向上に資する」とされる POCT (Point of Care Testing) の一部とみなす考え方に立てば妥当であるが、後者を「普遍的」と呼ぶことには問題があると思われる。「普遍 (universality)」には、ある範囲のものすべてに例外なく該当すること、との字義があり、文脈から判断して、定められた項目をくまなく評価するという意味で用いられており、「系統的」検査と表現することが妥当と思われる。

ここで、もう一度「超音波診断の本質は臨床推論的

確性にあり、その原則からは系統的走査が基本となる」という立場から、POCTとしての超音波検査について考えてみる。臨床医等がベッドサイドでリアルタイムに行う超音波検査には、以下の3方式がある。すなわち、①系統的走査を行う技能のある検査担当者が、検査室と同じ質の検査をベッドサイドで行う、②①の検査担当者が、種々の目的や制約のために、限られた内容の検査をベッドサイドで行う、③超音波を専門としない医師が、救急の場面等でPOCUS (Point of Care Ultrasonography) が定める一定のフレームワークの中で、検査をベッドサイドで行う、ことに類型化される。小室氏が職種間差で述べた医師が行う超音波検査は②に、技師が行うそれは①に該当する。一方で、小室氏が言及している①の枠内で行う重症度診断は、臨床推論的的確性を吟味することに直結しており、超音波診断の本質にもつながる。

一定の手順を踏んで対象臓器を診ていく「系統的」走査は、「標準化」の概念とも相性が良いと思われる。「標準化」の字義は、「望ましい手本を仲立ちとして、成員相互による認識の互換性を保つこと」とされる。小室氏は、そこに至るための過程として領域ごとのガイドラインと、現場に合わせての変更を許容するマニュアル作成を提唱している。これは、「適用領域と想定される対象疾患をあらかじめしほり込んだ上で、初学者にも一定の成果を求め得る教育のあり方」にもつながる方針である。しかしながら、領域ごとに縦割りの学習過程を設定するこの方法が有効に機能するカギは、領域横断的な臨床超音波の基礎の習得にあると思われる。現行の専門医制度の研修カリキュラムが、循環器・消化器・腎泌尿器・産婦人科・乳腺・甲状腺・眼科・整形外科・脳神経・呼吸器の計10領域におよぶ専門領域に、必須項目としての臨床超音波共通領域・医用超音波工学の基礎・臨床超音波医学の基礎が加えられた構成であることは、この考え方を強く支持するものである。

小室氏がガイドライン策定の先に見据えている「標準化」という問題を、実際的に考える上で参考となるのは、「腹部超音波健診 判定マニュアル」である。診断装置の仕様や走査法・必要な記録断面・事後管理等、細かく記載された「実施基準」と、事後対応のあり方を含む「カテゴリーおよび判定区分」とからなる詳細なものである。健診の場で、超音波検査に取り組む手順が具体的に網羅されており、初学者から経験者まで高い有用性が

シンポジウムのまとめ：標準化の課題と対策 (超音波医学. 2018;45:587-590)

小室 薫, 武田 充人

J-STAGE. Advanced published. date: August 9, 2018